

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

松山市立日浦小学校
授業者 西河 珠美

1 単元名 わたしにできる減災・防災(全16時間)

2 単元の目標

昨今の自然災害から学び、自分の身を守る方法についてまとめ、全校児童や地域の方に発信する活動を通して、自分自身や家族、地域のためにできることを考え、行動できるようにする。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、全体計画に定めた探究課題「自然災害から命を守るための取組とそれに携わる人々」を踏まえて構想した単元である。昨今の自然災害から学び、身を守る方法についてまとめ、全校児童や地域の方に発信する活動は、問題の解決に向けて児童が主体的に取り組むことができる活動である。

子どもたちが学んでいる日浦地区は、松山市の北東部、石手川ダムのさらに上流にあり、緑豊かな山林に囲まれた地域である。しかし、少子高齢化により、農林業に従事する人も減少の一途をだどっており、手入れの行き届かない竹林や休耕田が増えてきている。ひとたび、大雨が降ると、地盤の緩んだ山肌から激んだ水が道路に流れ込み、生活道路が冠水することもある。学校現場での防災教育は、今や必須である。

(2) 児童観

元日に起きた能登半島巨大地震によりもたらされた被害を目の当たりにし、近いうちに起こるかもしれない南海トラフ地震について高い関心を抱いている。しかし、実際に何をどのようにすればよいか、自分事として考えている児童は少ない。また、防災に関しても『大人が準備してくれる』『家族がしてくれる』『〇〇が、・・・』と、他人任せで、主体性に欠けている。

そこで、児童一人ひとりが状況に応じて、自分の命は自分で守ることができる自助の意識、状況から自分のできることを考え行動できる共助の意識を育てるといった主体性を育む防災教育を進めていくことが大切であると考えます。

(3) 指導観

単元の導入では、能登半島地震等の自然災害についての情報から学び、『災害から身を守る行動を提案しよう』という課題を設定する。また、家族へのインタビューや備蓄品などの備えについて実態を把握させ、自分事として考えさせる。

次に、学校、地域、行政の防災について学ばせたい。学校では、防災担当の教頭、地域の事は、自主防災組織長さん、行政については、松山市危機管理課の方から、それぞれ、インタビュー取材や、まち歩きにより、情報を収集させることで防災意識を高めさせたい。そこで学んだ情報を動画やポスターにまとめ、家庭、地域へと発信する活動を行う。自分の活動が、地域への貢献につながることを体感させたい。

(4) ESDとの関連

ア この題材で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

- ・連携性・・・家族や地域と協力して、防災・減災について共に取り組んでいかなければならない。
- ・責任制・・・過去の自然災害の原因や被害状況について学び、防災・減災の大切さを実感し、自分にできることを考え、自分の身は自分で守ろうとする。

イ この学習を通して育てたい ESD の資質・能力

【批判的に考える力(クリティカル・シンキング)】

- ・国や市町から出されている情報のみで頼るのではなく、日頃から防災について正しく学び、状況に応じて身を守る行動ができるようにする。

【他者と協力する態度】

- ・家族や地域、友達との意見交流を通して、他者の考えを尊重し、お互い協力する態度を育てる。

ウ この学習を通して育てたい ESD の価値観

【世代内の公正】

・正しい知識を学び、状況に応じて自分の身を自分で守ることができるよう、家族や学校、地域全体で防災意識を高める。

【自然環境や生態系保全を重視する】

・里山は、人が手を入れることで守られている。自分たちの行動が、果たして自然環境や生態系保存に影響を及ぼしていないかという視点で自分たちの生活を見つめ直すことも大切である。

4 達成が期待される SDGs

【11 住み続けられるまちづくりを】

【15 陸の豊かさも守ろう】



5 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたこと、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	①自分たちの命を守る防災の在り方について、客観的なデータや防災の必要性から課題を設定し、解決に向けて自分たちにできることを見通している。	①自然災害や防災に関心を持ち、自分自身の生活を見つめ直し、自分の意思で探究的な学習に取り組もうとしている。
	②インタビューやアンケートなどによる調査を、目的や場面に応じた方法で実施している。	②自然災害や防災の在り方をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選択し収集している。	②インタビューやインターネットなどから得た知識や、自分と異なる友達の考え、専門家の意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。
	③自分で自分の命を守る意識と防災の重要性への認識の高まりは、自然災害や防災と自分たちの生活との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	③必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。 ④他学年の児童や地域に向けて、防災の意識を高めるにはどのように伝えたらよいか相手の立場になって考え、まとめ、表現している。	③自然災害や防災と自分たちの生活との関わりに関心を持ち、解決に向けて、地域のさまざまな人々のことを想定し、地域の一員として命を守る行動の重要性を積極的に訴えようとしている。

①概念的な知識の獲得 ・多様性・相互性・有限性 ・独自性・協働性・創造性	①課題の設定	①自己理解・他者理解
②自在に活用することが可能な技能の獲得	②情報の収集	②主体性・協働性
③探究的な学習のよさの理解	③整理・分析	③将来展望・社会参画
	④まとめ・表現	

6 指導と評価の計画(16時間) ※このうち2時間は、「中間報告」「学期末報告」にあてる。

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 過去の地震災害から学ぼう。(3)	・能登半島地震等の自然災害について積極的に学び、「災害から身を守る方法を提案しよう」という課題を設定する。(2)	①	①		・発言内容 ・ワークシート
	・家庭の災害への備えについて取材し、実態を把握し、課題を明らかにする。(1)			①	・行動観察 ・記録シート
2 学校や地域、市の防災対策について調べよう。(6)	・日浦地区自治防災組織長さんから、地域防災の課題を聞く。(1)	②		②	
	・防災町あるきを行うことで、日浦地区の地形等から災害危険予測を行い、普段からの備えについて考える。(1) (日浦地区自治防災組織長)	②	①		・発言内容 ・課題カード
	・探検してきたことを防災新聞にまとめる。(1)		②		・記録シート
	・教頭先生から、学校の防災についてお話を聞く。(1) 教頭(日浦小学校危機管理)	②		②	・探検メモ
	・行政の防災対策について学ぶ。(1) 松山市職員(松山市危機管理課)	②		②	
	・学んだ情報を共有しよう。(1)		②		
中間報告会 (1)【全学年】	・各学年の生活科と総合的な学習の時間の活動報告を聞き、次の活動への意欲を高める。(1) ※国語科「事実と意見を結び付けて書こう」関連	①	④		
3 防災について学んだことを提案しよう。(4)	・学んだ情報を分類・整理して、自分が伝えたい情報を選択する。(1)ピラミッドチャート(情報の順位をつける)		③		・提案内容
	・今までの調べ学習やインタビューにより学んで気付いたことをどのように発信するか話し合おう。(1)		③		・行動観察
	・調査したことや体験したことを整理して、伝えたい内容を効果的に伝える工夫をする。(2)	③		③	・発表内容
期末報告会 (1)【高学年】 【参観日】	・6年生の総合的な学習の時間の活動報告を聞いたり、発表したりして、活動のよさや自分たちの学びを振り返る。(1)	①	④		
4 自分たちの行動について考えよう。(1)	・今後の自分たちと地域との関わりについて、これまでの活動を振り返ってまとめる。(1)	③		③	・発言内容 ・記録カード

7 活動の実際

(1) 過去の地震災害から学ぶ

単元の導入では、令和6年1月1日に発生した能登半島沖地震の新聞記事から、地震災害の現状を理解した。日本のお正月を襲った巨大地震は、子どもたちの中に大きく残り、日常の暮らしが一変し、家や家族を失った人々の悲痛な悲しみを感じ取った。インフラはすぐの復旧は難しく、以前の暮らしを取り戻すには、かなりの時間を要することを理解した。

また、過去の地震災害を学ぶ中で、日本は、自然が豊かな反面、地震や災害が頻繁に起きていることを知り、自分自身、家族、大切な人の命を守るために何ができるかを考え、提案しようという思いが高まった。そこで、「災害から身を守る方法を提案しよう」という追究課題を設定した(資料1・2)。

(2) 自分たちにできること

今、自分たちにできることは何があるかを話し合う中で、みんなに呼び掛けて、「募金で応援しよう」という声が挙がった。中学校の生徒会と Teams でつなぎ、募金方法と期間を話し合い、児童会生徒会を中心に、募金活動を行った(資料3)。集まった金額は、児童会生徒会の代表が、河中簡易郵便局から石川県へ送金した。行動を起こすことで思いを届けることができることを体感する活動となった(資料4)。

(3) 防災対策について調べよう

自分達の家では、災害に備えてどんな準備をしているのか、各自が調査した(資料5)。各家庭に差はあるものの、以前より災害への備えが進んでいることがよく分かった。反面、課題も明らかになった。ペットを飼っている家庭では、もしもの時のペットとの避難をどうすればよいのか話し合い、準備する必要があることが、話題になったようであった。

学校では、「学校安全点検表を参考にしながら、小学校の校舎内、体育館などを探検し、防災機器(煙感知器、消火器、火災警報器)等の位置を自分たちの目で確認していった。また、毎日、教師が輪番で学校を巡視、毎月重点的に安全点検を行っていること、年間3回の避難訓練を開催していることを知った。より、避難訓練に真剣に取り組もうという気持ちが高まった。

自主防災組織会長さんに町内を案内していただきながら「防災町歩き」を行った。



(資料1) 新聞記事を読む児童



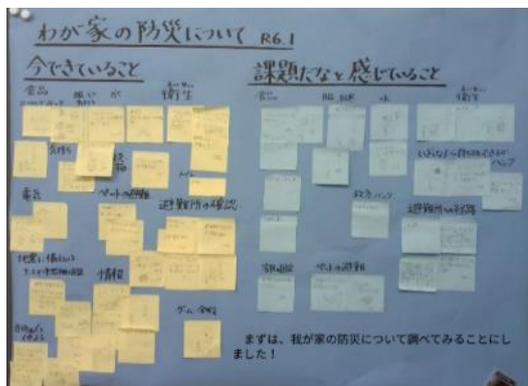
(資料2) 感想を出し合った板書



(資料3) 小中 Teams 会議



(資料4) 石川県へ送金手続き



(資料5) 我が家の防災について

豪雨の時には、川の水が予想を超えた水量となり、畑までもが水に浸かったこと。それにより、水が運んできた木や砂が、畑や田んぼに入り込んだままになっていること。などを目にし、災害が、私たちの生活に多大な影響を及ぼしていることを知った。人の手入れが追いつかず手つかずになっている竹林、崖崩れ、小規模火災が発生した箇所など、実際に町を歩いてみることで、危険カ所等を確認することができた(資料6)。

松山市防災危機管理から、講師をお招きして、市の対策を学んだり、自分自身の身を守るためにできることを考えたりした(資料7)。マップを活用し、地震、津波、洪水、土砂災害などの危険エリア、避難場所の確認を行うことが大切であることを学んだ。再度、マップから自分の住んでいる場所やよく訪れる場所の危険度をチェックし、もしもの時にどう行動すればよいか考える機会となった。

4 防災について学んだことを提案しよう

これまでに学んできたことを三つのテーマ「災害知識編」「災害対策編」「災害行動編」に分類し、一人一人が、テーマごとに新聞にまとめたり、動画作成を行ったりした(資料8)。まとめた内容を家庭、地域に発信するため、参観日には、一人一人が課題追究してきた事項を「防災 KIDS」に扮して、発信した(資料9)。また、国語科「意見文を書こう」と、関連を図り、防災をテーマに調べたことを基に意見文を作成した。

5 成果と課題

学習を通して、児童自身が、自分自身の防災意識が高まったと感じていた。また、家庭の防災グッズを見直したり、ペット用の持ち出し用食料等を新たに準備したりするなど、行動に移す児童もいた。もしも災害が起きてしまったら、私たちにできることは、まずは自分自身の身(命)を守る行動できること、自分で判断して、率先して避難するなど、命を守る行動を起こす事が大切である。災害はいつ起こるか分からない。今度、活動内容を見直し、子どもたちに防災への汎用的な力を身に付けさせるための有効な手立てを熟考していきたい。

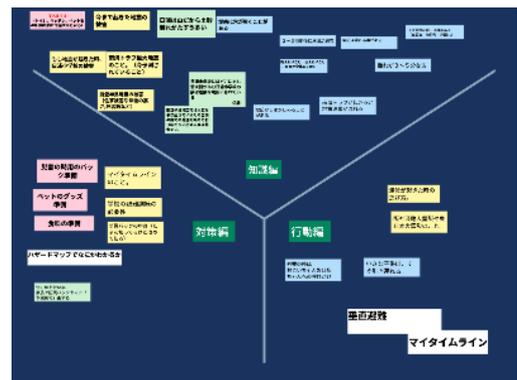
また、家庭科「ほっと一息」との関連も図り、一年間の活動を通してお世話になった地域の方をお招きして、お茶と白玉だんごを一緒にいただきながら、交流を深めた(資料 10)。こうして、地域の方との交流を図る活動が、相互理解と共助の意識を高めことにもつながることを期待したい。



(資料6) 防災まちあるき



(資料7) 危機管理課の方のお話



(資料8) 情報整理・分析



(資料9) 参観日の様子



(資料 10) 地域の方との茶話会



現在の学年終了時に目指す姿

昨今の自然災害から学び、自分の身を守る方法についてまとめ、全校児童や地域の方に発信する活動を通して、自分自身や家族、地域のためにできることを考え、行動できるようにする。

総合的な学習の時間

「わたしにできる防災・減災」

昨今の自然災害から学び、自分の身を守る方法についてまとめ、全校児童や地域の方に発信する活動を通して、自分自身や家族、地域のためにできることを考え、行動できる。

総合的な学習の時間「わたしにできる防災・減災」

○主に養いたい ESD の資質・能力

【世代内の公正】

・正しい知識を学び、状況に応じて自分の身を自分で守ることができるよう、家族や学校、地域全体で防災意識を高める。

【自然環境や生態系保全を重視する】

・里山は、人が手を入れることで守られている。自分たちの行動が、果たして自然環境や生態系保存に影響を及ぼしていないかという視点で自分たちの生活を見つめ直すことができる。

社会科「自然災害を防ぐ」

我が国の国土の自然環境と生活について、災害の種類や発生位置や時期、防災対策などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることができる。また、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解し、主体的に学習問題を解決しようとする。

家庭科「いっしょにほっとタイム」

家族や周囲の人びとなどの集まった人たちと楽しく過ごす方法について考え、工夫する。一年間でお世話になった地域の方を招いて、楽しい時間を過ごす。

お世話になった地域の方へ、感謝を伝えよう。これからも、交流を大切にしたいな。

道徳科「稲村の火」

稲むらに火をつけて津波から人々を守った話を題材にして、人の心の気高さについて考え、畏敬の念をもつ。

よりたくさんの人に防災・減災について知ってもらいたいな。

「学習発表会」(参観日)

学習を通して学んだことをポスター、動画にして発信。

国語科「意見文を書こう」

防災マップや松山市危機管理課の方からいただいた資料や地域探検やインタビューから得た情報を整理し、伝えたい内容を整理する。その上で、根拠となる資料を示しながら、災害から命を守るためにできることを書くことができる。

日浦地区は、高齢化が進み、手入れのき届かない竹林や休耕田が増えてきている。大好きな日浦地区の人々や自分たちの命を守るために何ができるかな。

理科「雲と天気の変化」「流れる水のはたらき」

雲の様子から天気の変化の仕方を理解したり、川の流れから、土地の変化に気付いたりするなど、観察や情報収集に関する技能を身に付け、適切な判断ができる。

災害への正しい知識をもつことで、この先の危険予知ができ、より適切な行動への判断が可能になるね。